

【評価区分】Ⅳ：年度計画を達成している（達成率100%）Ⅲ：年度計画を概ね達成している（達成率80%以上）Ⅱ：年度計画を十分には達成できていない（達成率60%程度以上）Ⅰ：年度計画を達成できていない（達成率60%程度未満）

第3期中期計画	評価区分	令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分	令和7年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p>3. 教育研究組織 【計画6】㊦(大学院医療保健学研究科) 大学院医療保健学研究科修士課程プライマリケア看護学領域を令和5年度に開講するための準備を進めるとともに、開講後適切に運営する。</p> <p>「計画達成のための方策」 大学院医療保健学研究科修士課程プライマリケア看護学領域を令和5年度に開講するため、関係機関との調整等を着実に実施し、開講準備を着実に進めるとともに、開講後適切に運営する。</p> <p>「評価指標」 ・大学院修士課程プライマリケア看護学領域の開講準備・運営状況 (令和7・8年度) ・入学者数、特定行為管理委員会開催数、修了生の人数、日本NP教育大学院協議会におけるNP資格認定試験合格者の人数、修了後の就業先と職務の状況、修了後の学会や研究会等の発表件数、在学生と修了生との交流及び研修会の開催状況</p>	Ⅳ	<p>・大学院医療保健学研究科プライマリケア看護学領域では第1期生は令和7年3月に11名全員が最短の2年間で修了することができた。</p> <p>・令和6年4月には第2期生16名が入学し、令和7年4月には12名の入学が決定し、令和7年度はM1生12名、M2生16名が修士課程にて学ぶことになる。8名程度の定員確保は3年連続で達成できている。</p> <p>・院生の特定行為研修に関する履修状況と修了を審議する「特定行為研修管理委員会」は外部委員4名を含めた8名の構成員で4月、12月と3月と3回開催され、カリキュラム内容や講師の選定、実習施設の選定、成績管理および修了判定が計画通りに行われた。</p>	<p>【年度計画6】 1. 大学院医療保健学研究科修士課程プライマリケア看護学領域を開講し適切に運用する。 2. 特定行為研修管理委員会を開催する。 3. 修了生（3年長期履修）及びNP協議会認定試験合格者を輩出する。 4. NP修了生、在校生の交流、報告会を実施する。</p> <p>「評価指標」 ・大学院修士課程プライマリケア看護学領域の運営状況 ・特定行為研修管理委員会1～2回/年 ・修了生（3年長期履修）及びNP協議会認定試験合格者5～8名 ・NP修了生、在校生の交流、報告会 年1回程度 ・入学者数、特定行為管理委員会開催数、修了生の人数、日本NP教育大学院協議会におけるNP資格認定試験合格者の人数、修了後の就業先と職務の状況、修了後の学会や研究会等の発表件数、在学生と修了生との交流及び研修会の開催状況</p>	Ⅳ	<p>1. 大学院医療保健学研究科修士課程プライマリケア看護学領域は令和8年3月に第2期生を14名最短の2年間で修了させることができた。また7年4月には3期生12名が入学した。教育課程のカリキュラムは予定通りに遂行できた。</p> <p>2. 特定行為研修管理委員会を令和7年度は2回開催し、特定行為研修の修了判定やカリキュラム内容の審議を行った。</p> <p>3. 2期生は16名の入学であったが、実習等の科目が不合格のため1名が退学、1名が休学となった。NP資格試験は令和6年度の1期生で不合格であった2名、7年度受験者14名合わせて16名がすべて合格した。</p> <p>4. NP修了生、在校生の交流、報告会に関してはM2の課題研究の発表会にM1の在校生が参加することで交流の機会を作った。</p> <p>・プライマリケア看護学領域が教育訓練給付制度（専門実践教育</p>		

第3期中期計画	評価区分 令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分 令和7年度計画達成状況	評価区分 自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p>【計画7】（東が丘看護学部・看護学研究科） 独立行政法人国立病院機構との連携協力により東が丘看護学部及び大学院看護学研究科修士課程・博士課程において設置の趣旨を十分活かし教育研究を着実に履行するとともに、国立病院機構との連携協力を一層強化し教育研究体制の整備・充実を図る。</p> <p>「計画達成のための方策」 1. 令和5年度に看護学研究科に「教育・研究者プログラム」と「看護管理者プログラム」を設置する。</p> <p>「評価指標」 ・「教育・研究者プログラム」と「看護管理者プログラム」の設置状況</p> <p>2. 放射線看護研修センターで行っているがん放射線療法看護認定看護師養成課程は、発展的に終了し、上記看護学研究科における大学院教育に注力する。</p> <p>「評価指標」 ・放射線看護研修センターの円滑な終了手続き状況</p> <p>【計画8】（千葉看護学部・千葉看護学研究科） 独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）との連携協力により、千葉看護学部において設置の趣旨を十分活かし教育研究を着実に履行するとともに、JCHOとの連携協力を一層強化し教育研究体制の整備・充実を図る。</p> <p>「計画達成のための方策」 1. 全学様式による教員自己評価を継続する。</p> <p>「評価指標」 ・全学様式による教員自己評価の継続（1回/年）</p>	<p>IV</p> <p>1. 高度実践看護、助産、公衆衛生ならびに看護科学コース（看護教育・研究者プログラムおよび看護管理者養成プログラム）の定員を満たしている。100% 令和7年3月には第1期生3名は最短の2年間で修了し、学位（看護学修士）を取得された。 令和7年4月からはさらに新規に看護管理者プログラムは5名が入学の予定であり、勉学・研究に励んでいる。令和7年度にはM1生5名プラスM2生2名の予定である。100% 看護学研究科「高度実践助産コース」「高度実践公衆衛生看護コース」に対し、学部から学部長の特別推薦制度を設け、令和7年度入学生として3名を確保した。</p> <p>2. 高度実践看護コース、看護科学コースで各々、個人的にやむをえない理由で1年次末に退学者がでた。</p>	<p>【年度計画7】 1. 継続的運営を行う。 2. 定員確保</p> <p>「評価指標」 ・新体制での定員確保状況</p> <p>【年度計画8】 1. 全学様式による教員自己評価を継続する。（研究科開設時より研究科にも適用してきた活動の継続を含む）</p> <p>「評価指標」 ・全学様式による教員自己評価の継続（1回/年）</p>	<p>IV</p> <p>1. 高度実践看護、助産、公衆衛生ならびに看護科学コースの定員を満たしている。</p> <p>III</p> <p>2. 博士後期課程と看護科学コースで、1名ずつ個人的にやむをえない理由で退学者がでた。</p> <p>IV</p> <p>1. 全学様式による教員自己評価を5月に実施し、学部長による総括を8月に公開した。</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分	令和7年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
	<p>2. JCHOとの人事交流を継続する。 【評価指標】 ・ JCHOとの人事交流の継続(助手1人/年)</p> <p>3. JCHOとの共同活動に関するグランドデザインをもとに、人材育成と活用を進め、点検評価を行い継続的な発展を図るとともに、成果を公開する。 【評価指標】 ・ JCHOとの共同活動状況(運営協議会1回/年、未来を語る検討会4回/年、JCHO学会発表1回/年)</p> <p>4. カリキュラム改定準備を進める。 【評価指標】 ・ カリキュラム改定の準備状況 ・ DPと一貫したAPを実現するための検討状況</p> <p>(令和7年度より新規)</p> <p>5. 令和9年度に和歌山看護学研究科と合同での研究科博士課程を設置するための検討を開始する。 【評価指標】 ・ 博士課程設置検討会開催状況(千葉看護学研究科WG会議、千葉看護学研究教授会、両研究科合同会議) ・ 全学学部長等会議/経営会議検討状況 ・ 文部科学省設置相談状況</p>	I	2. 2024年度は、大学として、定員補充の見合わせの要請があり、人選を含めて、保留している。	2. 大学全体の職員配置方針が検討中のため、保留とする。 【評価指標】 ・ 保留にて評価指標なし。	III	保留中にて、評価の対象外とする。			
	III	3. JCHOとの運営協議会を8月1日に開催した。人材育成に関しては、船橋中央病院での新人研修への参加、船橋中央病院・東京山手メディカルセンター・埼玉メディカルセンターでの看護研究に関する共同活動及び学会発表、公開講座における講師依頼を行った。JCHO学会発表は行わなかった。「未来を語る検討会」としては開催をしていない。千葉看護学研究科におけるNPコース立ち上げの検討は開始したものの、船橋中央病院の移転改築計画が遅延しておりグランドデザインの評価・対策は継続検討課題である。	3. JCHOとの共同活動に関するグランドデザインをもとに、人材育成と活用を進め、点検評価を行い継続的な発展を図るとともに、成果を公開する。(研究科開設時より研究科にも適用してきた活動の継続を含む) 【評価指標】 ・ JCHOとの共同活動状況(運営協議会1回/年、未来を語る検討会1回/年、JCHO学会発表1回/年)	III	・ JCHOとの運営協議会を9月4日に開催し、学部卒業生の就職状況や、研究科での院生の学修状況の共有をはかった。 ・ 各JCHO病院における看護研究の指導・相談にのりJCHO学会等での発表につなげたり、船橋中央病院での新人研修への参加、東京山手メディカルセンターからのICTを活用した授業の見学等、その他複数の病院との特定行為研修促進のための共同研究を実施し、JCHO研修センター主催の実習指導者講習会や認定看護管理者研修での講師を担当したが、「未来を語る検討会」としては開催をしておらず、統合的な共同活動の把握・整理と課題探索は実施していない。				
	III	4. 令和5年度に引き続きカリキュラムプロジェクトを組織し、文部科学省の看護学モデルコア・カリキュラム改定作業の中で示された11の資質と能力の内容を確認しDPの見直し案の作成を行った。あわせて8月27日には、11の資質と能力についての学習会、3月13日には新DP案の説明や授業時間の変更についての学習会を行うなどカリキュラム改正に伴う学部全体での方向性を確認した。令和7年度は実施できなかったCP、APの検討などを継続する予定である。	第4章 教育課程・学修成果【計画19-1】と重複していたため4.を削除する。	IV	— 項目として削除しているので、記載の該当ではない				
			5. 令和6年度より検討を開始した博士課程設置に関する検討・準備を進める。 【評価指標】 ・ 博士課程設置検討会開催状況(千葉看護学研究科WG会議、千葉看護学研究教授会、両研究科合同会議) ・ 全学学部長等会議/経営会議検討状況 ・ 文部科学省設置相談状況	IV	5. 令和9年度の設置を目指し、和歌山・千葉での合同会議を積み重ね、必要な資料を作成した。並行して、関連施設や修士課程修了生を対象としたニーズ調査も行った。その結果を基に、大学の学部長等会議/経営会議にて審議・承認を受け、大学設置・学校法人審議会大学設置分科会運営委員会へ事前相談資料を送付した。				

第3期中期計画	評価区分 令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分 令和7年度計画達成状況	評価区分 自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p>【計画9-1】㊦(和歌山看護学部・看護学研究科・和歌山看護実践研究センター) 生涯を通じて自己研鑽するための支援体制をつくり、生涯にわたって成長し続ける医療人の育成を図る。</p> <p>「計画達成のための方策」 1. 日赤和歌山医療センターとの協議のもと、ニーズの高いものから研修を計画・実施を行い、更に和歌山県下のニーズに対応する。</p> <p>「評価指標」 ・研修の実施状況、研修参加者からのニーズの把握状況 ・大学院入学者獲得の取組状況</p>	<p>II</p> <p>1. 本年度卒業生と日赤病院のニーズ；日本赤十字社和歌山医療センター就職者を対象に就職前講習会を実施し、30名の参加があった。今年度の内容は自信をもって行動できるよう講義・演習・交流で構成した。講義は「主体的な取り組み」「対人関係構築と効果的なストレスマネジメント」で、演習内容はバイタルサイン測定、寝衣交換・清拭、車いす移送・移乗、シーツ交換とした。交流内容は、2年目看護師の体験談および質疑応答とした。これら内容で就職前講習会を実施し、参加者に良い効果が得られるとともに日赤職員との関係形成の場ともなった。</p> <p>2. 県下に向けてのニーズ調査は次年度以降とし、まず今年度は連携病院である日本赤十字社和歌山医療センターの看護職の要望等を把握し、対象にとって効果的な業務や今後の研究につながるPC研修を実施した。受講は11名であった。</p> <p>3. 秋季と春季3回の入学試験を実施したが、大学院入学生数は5名（日赤からは1名）になり、定員を充足できなかった。今後、県内医療従事者に和歌山看護学研究科の特色を明示したチラシ、パンフレットを作成し、周知啓発を行い入学生の確保を図る。診療看護師養成コースの検討も行っていく。</p>	<p>【年度計画9-1】 1. 日赤和歌山医療センターと本学部のニーズを優先した研修計画を実施する。県下のニーズに応じた研究について検討する。</p> <p>・大学院和歌山看護学研究科での学びの意味を発信し入学者の獲得を図る。</p> <p>「評価指標」 ・研修計画 年2回以上 ・大学院入学者 定員（12名） ・大学院入学者獲得の取組状況</p>	<p>IV</p> <p>1. 舟島なをみ先生「これからの看護学教育、研究、実践に求めるもの」による研修 参加者132名、回答者72名であり、研修内容が期待していたものであったとの回答が82%、理解できたとの回答が90%を占めた。満足度も高く、研究成果を教育・実践に活かす視点や、研究に取り組む意欲の向上につながった。一方で、実務への直結をより高める継続企画の検討が今後の課題である。</p> <p>2. 入職前研修会 日本赤十字社和歌山医療センター就職予定者30名を対象に、講義・演習・交流を組み合わせた研修を実施し、入職前の不安軽減、自己効力感の向上、就職後の具体的なイメージ形成に寄与した。加えて、日赤職員との関係形成の機会にもなった。今後は事後アンケート等を取り入れ、効果をより客観的に検証する必要がある。</p> <p>3. エクセル研修会 参加者11名で、基礎から丁寧に学べたこと、Excelへの苦手意識が軽減したこと、記録時間の短縮や業務効率化に役立つとの反応が得られた。また、Word、PowerPoint、Excel応用編、統計研修など次のニーズ把握にもつながった。今後は参加者の習熟度に応じた基礎編・応用編の整理が課題である。</p> <p><総括> 年度計画9-1における研修実施という点では、学内FD/SD、入職前支援、現場ニーズ対応型PC研修の3本柱を実施できており、計画は概ね達成している。ただし、弱点も明確である。第一に、研修の教育効果を測定する指標が十分に整備されていない。第二に、研修実施が大学院入学者確保や研究科の魅力発信にどの程度結びついたかの検証が弱い。第三に、県下全体のニーズ把握は未だ限定的であり、現状は連携先中心の展開にとどまっている。次年度は、「実施した」ことの報告で終えるのではなく、「誰にどのような効果があり、それが地域連携・進学・研究推進にどう接続したか」を示せる評価設計へ転換する必要がある。</p> <p>・チラシ配布や病院訪問など広報活動を行ったが、次年度大学院入学生は2名である。来年度に向けて入学者確保のため、入試広報委員が引き続き取り組みを行う。</p>		

第3期中期計画	評価区分	令和6年度実績	令和7年度計画	評価区分	令和7年度計画達成状況	自己点検・評価委員会	評価区分 内部質保証推進会議
<p>(令和7年度より新規) 2. 令和9年度から大学院に診療看護師養成コースを設置するための検討を進める。 【評価指標】 ・大学院に診療看護師養成コースを設置検討会での協議状況</p> <p>【計画9-2】医療保健学部看護学科・医療栄養学科・医療情報学科 (令和7年度より新規) 生涯を通じて自己研鑽するための支援体制をつくり、生涯にわたって成長し続ける医療人の育成を図る。</p> <p>「計画達成のための方策」 令和8年度から医療保健学部の3学科を看護学科(入学定員120名)、医療保健学科(入学定員160名(管理栄養学専攻68名、臨床検査学専攻32名、医療情報学専攻30名、臨床工学専攻30名))の2学科に統合・再編する。 【評価指標】 ・学科統合・再編計画の進捗状況 ・医療保健学科の入学定員・収容定員の確保状況</p>			<p>2. 令和9年度から大学院に診療看護師養成コースを設置するための検討を進める。 【評価指標】 ・大学院に診療看護師養成コース設置検討会での協議状況</p> <p>【年度計画9-2】 文部科学省へ看護学科の収容定員増及び医療保健学科設置のための届出を行うとともに、看護学科の入学定員120名、医療保健学科入学定員160名を確実に確保するため、入試広報、入試事務を着実に実施する。 【評価指標】 ・学科統合・再編計画の進捗状況 ・医療保健学科の入学定員・収容定員の確保状況</p>	IV	<p>2. 学内にNP検討委員会を設置し、シンポジウム、啓発冊子作成等による啓発や医療関係者のニーズ調査を実施した。大学内ではこれらの結果をもとに診療看護師コース設置について経営会議に提案し了承を得た。また、五反田キャンパスのプライマリケア看護学領域の担当教員の方々とカリキュラム等について協議を重ねている。さらに、特定行為研修指定機関の指定に向けて取り組んでいる。</p> <p>III ・医療保健学部看護学科の収容定員増及び医療保健学科の設置に係る「文部科学省への事前相談」については、令和6年度中に手続きが完了していたが、3月末に教員の退職等により事前相談の内容が一部変更したことから、当初の事前相談は無効となり、改めて4月21日に変更後の「文部科学省への事前相談」資料を再提出した結果、6月18日付で文部科学省から「届出による設置が可能」の旨通知があり、6月30日に「文部科学省への設置届出」資料の提出を行った。その後、8月29日付で文部科学省から「設置届出を受理した」旨通知があり、正式に医療保健学部看護学科の収容定員増及び医療保健学科の設置が認められた。 ・令和7年度に実施した令和8年度入試の結果、管理栄養学専攻36名、臨床検査学専攻38名、医療情報学専攻33名、臨床工学専攻4名の合計111名の入学者となり、医療保健学科の入学定員充足率は0.69となった。とりわけ、管理栄養学専攻は、入学定員68名に対し36名の入学者であり、臨床工学専攻は、目標としている30名の入学者を大きく下回った結果となったことから、次年度に向けてさらなる対策を講じ、定員の確保に努める。</p>		